

「知的障害特別支援学級担当者のための 授業づくりサポートキット（小学校編） すけっと(Sukett)」の紹介

知的障害教育研究班

令和3年、国立特別支援教育総合研究所は**創立50周年**です。



1

知的障害特別支援学級の授業づくり



『すけっと』が
お助けします！

次のページから、
『すけっと』の中身を
少しだけ紹介します！

2

まず、押さえておきたいこと！



知的障害のある児童は抽象的な思考に困難さがあるため、学習した内容を実際の生活場面で生かすことが難しい場合があります。

したがって、児童が実際の生活場面と学習内容を結び付けながら身に付けられるよう、具体的な活動を通して学習を積み重ね、定着を図る必要があります。

3

例えば、
こんな授業

知的障害のある児童の特性や教育的対応のイロハについては『すけっと』のP. 5 ~ 8をCHECK!!



学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面に生かすことが難しいので、

- ▶ **実際の生活場面に即しながら、繰り返し**学習する。
- ▶ **継続的、段階的**な指導をする。



例：【模擬貨幣での買い物の活動（お金の学習）】

買う側・売る側の両方に慣れてきた頃、みんなで折り紙を作り、お店を開いて友達に買ってもらう「お店屋さん」の活動につなげました。

4

知的障害のある児童一人ひとりの特性や実態は異なります。授業づくりの第一歩は「実態把握」です！

例えば、国語科においては、右記の観点ごとに児童の実態を把握してみましょう！

知的障害のある児童の国語科や算数科の指導のコツについては『すけっと』のP.10～23をCHECK!!

言葉の特徴や使い方	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な名詞、動詞、形容詞と、それが示すものとの対応をどの程度わかっているか（語彙）。 ● 他人の話した内容が何を表しているのか、どの程度わかっているか。 ● 1文字のひらがな、カタカナ、漢字をどの程度読めるか。 ● ひらがな、カタカナ、漢字それぞれが含まれる単語をどの程度読めるか。
情報の扱い方	<ul style="list-style-type: none"> ● 話や文章の中に含まれている複数の情報の関係性を、どの程度理解できるか。
我が国の言語文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 昔話や言葉遊びをどの程度知っているか、それを楽しめるか。 ● 読み聞かせにどの程度の注意を向け、楽しむことができるか。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 話しかけにどの程度注目して、内容を理解し、答えることができるか。 ● どの程度、指示を理解して行動できるか。 ● 体験したことや自分の気持ちをどの程度表現できるか。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ● ひらがな、カタカナ、漢字それぞれのなぞり書き、写し書き、見本なしでの書きがどの程度できるか。 ● 書くことで自分の体験などをどの程度表現できるか。 ● 文字をどの程度なめらかに書けるか。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 読んだ内容が実際にどのようなことを表しているのかをどの程度理解できるか。 ● 読んだ内容の筋系列などをどの程度理解できるか。 ● 文章をどの程度なめらかに読めるか。

5

授業づくりの流れとポイントは？

実際に指導案や単元計画を作成していく際は、各ステップを行きつ戻りつしたり、常に児童の実態と照らし合わせたりする必要があります、一直線に進むものとは限りません。

6

集団での学び合いのポイントは？



知的障害特別支援学級では、学年と発達段階の違いのある学習集団で、個別の課題に応じた指導をしなければなりません。

共通の学習内容で学び合う授業づくりのためには、指導内容を分析してスモールステップ化します。そのことによって、幅広い学年と発達段階に対応した指導内容を系統的に整理することができます。



知的障害のある児童の授業づくりの流れやポイント、集団での学びについては『すけっと』のP.24～45をCHECK!!

7

教材・教具の活用



【タブレット端末の活用】

教科別の指導で活用するアプリを事前に学級活動で使用して慣れておくなど、教科別の指導の学習内容に集中できるように工夫をしています。使用する目的を明確に伝え、使用時のルールなども確認しておくといよいでしょう。



8

教材・教具の活用



【ホワイトボードの活用】
 ホワイトボードにある写真と同じ写真カードを用意しておき、児童が自分の机上で教師の質問に対する答えを予想し、分類しています。全体での学習を個人作業で確認することで、理解度を見取ることができます。



知的障害のある児童の授業において使用するICT、教材・教具については『すけっと』のP.58~73をCHECK!!



さらに詳しい内容は、
 Webページ「すけっと ばすけっと」へアクセス！

もくじ

これだけ知って欲しい！**実践編**
 授業づくりから見て、知ってほしい実践例について解説しています。
 知的障害のある児童の指導の仕方
 知的障害のある児童の「教材」指導の仕方
 授業づくりの具体的なポイント解説
 読み物「指導ステップ」のすすめ
 読み物「指導事例」の紹介
 読み物「実践事例」の紹介

もっと知りたい！**理論編**
 指導の理論について詳しく解説しています。
 指導の理論
 学習評価の基本的理解

さらに知りたい！**資料編**
 授業づくりの具体的な実践例を掲載しています。
 実践事例
 読み物「実践事例」の紹介
 読み物「実践事例」の紹介
 読み物「実践事例」の紹介

知照
 NISE授業づくりサポートシートでばすけっと！**事例編**
 実践事例から学ぶ、授業づくりの具体的な実践例について解説しています。
 事例1 実践事例「実践事例」
 事例2 実践事例「実践事例」
 事例3 実践事例「実践事例」



「すけっと (Sukett)」という通称は、「助っ人」という日本語と、英語のアクロニム Support Kit to Empower Teacher Teams (教員チームをエンパワメントするためのサポートキット) を掛けてつけたものです。

「すけっと ばすけっと」には「すけっと」ダウンロード版に加え、知的障害教育に関する基礎的な内容を解説した「すけっとどうが」などのコンテンツが揃っています。

<URL>
https://www.nise.go.jp/nc/study/others/disability_list/intellectual/sk-basket





ご清聴ありがとうございました